

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家 (2ユニット合同)		
所在地	浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&IjigvoCd=2277101131-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「気持ちのわかる親切」「和やかな雰囲気」「清潔」の法人の理念をモットーに、入居者の方が自然体で暮らすことが出来るよう支援します。
入居者の方や職員同士、ご家族とのコミュニケーションを大切にしています。
法人内の療養型施設に隣接し、健康面、精神面の対応も安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「どうしても此処がいい」との強い意志を示した本人、家族と主治医の了承を受け、看取りはおこなわない方針であるものの開設以来初めておこなっています。法人内の病院で入退院を繰り返していた96歳の末期ガンの男性で「痛みがコントロールできるなら」という主治医の条件の下進めるなか、職員の不安は否めず、病院の看護師に訪問してもらったり指示を仰ぎ、24時間連絡が取れる体制を整えて臨みました。最期まで強い痛みも無く、本人の希望に副って見送れたことは事業所にとって得難い体験であったと管理者は感じています。職員アンケートも実施し、反省点や今後の検討点を書面にまとめ、大きな財産となりました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「気持ちのわかる親切」「清潔」「和やかな雰囲気」を基本とし、グループホームの理念と共に職員一人一人が認識し実践できるよう今以上の働きかけが必要と感ずる	カンファレンスや現場で具体的な事例に基づいて投げかけるよう管理者が心掛けています。そこから職員の気づきも生まれ、また「和やかな雰囲気は「笑顔、」と、理念のキーワードも用意して浸透を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流については課題としてあかつているが、町内のお祭りへの参加に留まったままである。毎年の参加により町内の皆さんがグループホームを認識して頂けるようになった	近くの神社で毎年開催のお祭りに顔を出したり、立ち話もすることで「地域密着型事業所として此処に在る」ことをアピールしています。ピアノ演奏、書道、民話の読み聞かせ、草笛などボランティア訪問も盛んです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単独としての動きは無いが、法人全体として行っている。会議にて地域包支援センター職員に情報を伝え、間接的にはあるが理解を深めて頂けるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災関係、職員研修、地域との関わりについてのご意見を頂く機会として、活用している。目立った取組は無いが意見を参考にサービスの向上に努めている	本年度交替の自治会長は教育分野の経験から内部研修に役立つ助言もあり、新たな視点が加わっています。現在家族参加は1名ですが、議事録は玄関に掲示して面会の折に見てもらえるよう工夫しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二か月に一度の運営推進会議にて、市の担当者に現状を報告し、市の相談員の来訪にて現状を見て頂いている	運営推進会議にほぼ出席くださっています。が、欠席の議事録は次回のときに持ち帰ってもらうようにし、窓口には届けていません。浜松市のささえあいポイント事業所ならびに連絡協議会に登録しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の周知については、法人内の研修に参加し、理解し、身体拘束にあたる行為についても、その都度考えて行くよう努めている	昨年新しく入居の利用者が窓から離設したことで全開にならないようにしています。ただし、そのために他の利用者が不穏になりやすくなったので、あらためて職員間で協議し、安全が確認される居室については是正しました。今後も話し合いを続けていく予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待について基本的な事は、研修で学んでいる。すべての職員が理解を深めていけるよう常日頃から話題にし防止に努めていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修にて勉強するのみに留まり、活用支援については、法人内の担当者が行っている。知識として学んでいく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人内相談課にて十分な説明のもと、不安や疑問に関しては、管理者が直接説明する機会を設けており、理解や納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画立案時、面会時、運営推進会議等にて、ご要望、ご意見を伺っている。必要時、電話にて説明を行っている	家族の意向には出来る限り応えており、「下肢筋力を鍛えるよう、歩かせてほしい」との声から1ヶ月に1回浜松城公園まで行き、安全に気をつけながら敢えて段差があるところを歩くことに取り組んでいる例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に設置された意見箱の他、メールにて意見を聴く事が出来る。年に一度、個別面談を行い意見を聴く機会を設けている	会議ではカンファレンスが長引くことで他が疎かになってしまうことを懸念し、時間で区切って進めています。「行きたい」「やりたい」という研修参加を応援し、学びに意欲的な職員にはシフト調整に協力しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、個々の努力等を管理者が把握し代表者に報告している。職場環境の整備についても、職員の意見を出来る限り反映出来るよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には職員全員が参加している外部研修においても、可能な限り参加できるよう考えている。施設内の研修時間が少ない事が課題である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会としては、回数は多くはないが勤務状況に合わせ参加できるようにしている。今後は、相互訪問が出来るとういと考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の相談課にて相談員が家族より相談を受けている本人の困っている事や、要望についてはご家族から聞き取ることが多いが要望に沿った必要なサービスが出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人内の相談課にて相談を受け要望やふあんを聞き取り安心してサービスの利用が出来るよう支援している。必要であれば管理者が話を聴き今後の関係づくりに役立ててい		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の相談課担当者ご自宅や施設へ訪問し、ご家族との話やご本人との話の中で、グループホームにおいての支援を必要とするのか		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自立度に合わせ、待つことを基本に一緒に行動をし、信頼関係を築く事が出来るよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者ご本人に必要と思われる事は、ご家族に説明し、協力頂いている。今後もご本人の気持ちや支援内容をきちんと理解して頂きながら良い関係を保てるよう努めていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や周囲の理解や協力を必要とするが出来る限り、関係の継続を支援していきたい	孫の結婚式に招かれたり洋裁の師範だった人には生徒が訪れ、以前から通う美容院や残した家屋を見に行ったりと、近親者の理解を以てつながりが保たれています。外出レクで昔の仕事の場面を思い出した人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の意志を大切に、伝える事が困難な方でも自然な交流が出来るよう寄り添い安心した生活を送ることが出来るよう支援します		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し他施設や在宅へ変更された後においても、必要な場合は情報提供や相談を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護側の都合や施設の時間に捉われる事無く、出来る限り、ご本人の生活習慣を大切にしていけるようスタッフの間での情報交換を常に行い、利用者の意向に添えるよう努めている	ゆっくりと話ができる、例えば夜勤帯に聴き取るよう努め、普段は朗らかでも「実は症状が不安」と切ない心情を打ち明けてくれたこともありました。センター方式C-1-2シートを介して多様な視点を付加して共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、サービス利用の経過等は法人内の相談員の記録や入居時の聞き取り及びご家族からの情報収集を行い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録をもとに継続した心身の状態の把握を行うとともに、バイタルチェック表情、会話等の中で総合的に判断し見守りのなか安心した生活が出来るよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画立案時には、スタッフ間でモニタリングを行い検討している。また、ケア担当者会議にて、医師、看護師、栄養士、相談員、介護士が話し合いをしている	2票を担当職員が作成したうえで意見交換をおこない、計画作成担当者がまとめています。サービス担当者会議(ケア担当者会議)には主治医、看護師、栄養士、相談員も集い、専門的な視点が入っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のカンファレンスにより、気付いた事を検討し、決まった事柄を見やすいよう個別ファイルにまとめ介護計画に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを基本とし、周囲の協力が得られる範囲でニーズの対応を考えていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭りの参加や近隣のお店の利用 また、移動図書館の利用も行っている。 地域資源をまだ活用しきれていない部分もある為、今後検討していきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同意のもと西山病院医師がかかりつけ医となっている。月2回の往診の他、緊急時にも対応してくれている。耳鼻科、眼科 整形外科は他医療機関へご家族同行で受診して頂いている	利用者全員、法人の病院医師に変更しています。気になることはすぐに医師と連絡が取れ、相談や指示を仰ぐことができ、また精神科がある為認知症への投薬など知識が豊富なことから職員も安心です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に隣接の協力医療機関の看護師に必要時、連絡をし適宜相談アドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の担当者との会議において、情報交換が行われたり、その都度の報告や相談を行っている。また、法人内の相談課により他機関との相談や情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に基本的には看取りを行っていない事を説明している。重度化や医療の必要性について、その都度ご家族に話をし身体状況について理解が得られるよう努めている。法人内の相談課にて、その後のサービスについての説明を聴いて頂いている	重度化では家族との話し合いのもと、法人内の病院等紹介しています。通常、看取りはおこなわないことになってはいますが、本人の強い希望と家族の追従、医師の条件付きの了承と判断もあり、初めての取組みがありました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は隣接する病院から看護師が直ちに來る事になっているが、職員としては急変に遭遇した場合の心構えとしても訓練の必要がある為検討していきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルや年3回の防災訓練。入居者の避難訓練も行っている。今年から地域の防災担当者に訓練の様子を見て頂く	法人全体での防災訓練が年3回あります。本年防災マニュアルを見直しましたが、未だ当初の目標に至っていないので防災担当者がマニュアルでわかりづらい箇所は付箋を貼り、今後も修正していく予定です。	万が一に備え、事業所単独の訓練実施があることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの心身の状態やその時の状況を把握した言葉掛けを行っている。利用者の生活リズムに合わせたさりげない誘導、少し待ってみる等、配慮した対応を行っている	「居室前でのノックは返答があっても少し待ってからドアを開けるように」と配慮し、また男性職員での入浴介助を嫌がる利用者には時間を替えて希望に副うようにしています。年1度の法人の接遇研修にも出ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの認知機能を把握し、その人の出来る力を大切にしている。表情、言葉の端から感じとり、思いを汲み取る事が出来るよう寄り添い待つ事を基本としたケアを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を職員が決める事無く、利用者の方に合わせた生活が出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度の理容師の訪問やご家族の協力により行きつけの美容院への外出自分で好みの服を選びその人の合ったおしゃれが出来るよう支援している。身支度を整える事が困難な方は援助している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回の手作り昼食では、利用者の好みを考慮したり、楽しく調理が出来るよう工程を工夫し、ミキサー食の方も、味を楽しむ事が出来るよう考え調理している	副菜は法人の厨房から届いていますが、米飯は事業所のキッチンで炊いています。肉・カレー・天ぷらと、うどんでもバリエーションを変え飽きない食事を提供しつつ、サービス担当者会議では栄養士と話し合っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態である。嚥下に合わせ、刻みやトロミ、お粥の提供をし、アレルギーの方は別の食材を提供し、どの方にも同じように、栄養が摂取できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の協力歯科医院の衛生士による口腔ケアの指導を受けている。義歯の方は曜日を決め「入れ歯洗浄」にて消毒を行っている。ご自分では困難な方はスタッフが誘導し、介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し身体機能の状態によりパットの使用やトイレ誘導を行っている。夜間、トイレへ行く事が困難な場合はポータブル	紙パンツから布パンツへと「その人の今に適した排泄用品を」としてしています。夜間に自分で紙パンツを交換する人には定時訪室して、本人に紙パンツを手渡しすることをはじめ自尊心を大切にしたい関わりを旨としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の献立に乳製品があり、また排泄状況の記録や腹部の張り等を確認しながら水分摂取を勧めたり、ヨーグルトや乳酸菌飲料を摂って頂いている。主治医との相談にて内服薬の調整も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっているか気持ちよく入浴して頂く為に、無理強いはいしていない入浴を嫌がる場合は時間をずらしたり、別の日に入浴して頂く等、柔軟に対応している	浴槽をまたぐことが困難になったとき活躍する2階の機械浴(縁が下がるタイプの浴槽)には現在3名利用しています。常時流し続けて入れ替えられた湯で過ごし、気持ちよさそうに寛ぐ利用者を目にする事ができました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりその日のリズム、精神状態を観察し、日中の活動を促したり、休息を取って頂いたりしている。必要であれば医師の指示のもと内服薬の利用もしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は医師の診察時に説明を受け情報を共有している。内服薬の開始、中止、内服後の状態等、記録し症状の変化を見極めるよう		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る力、意志を大切に日々支援している嗜好品や楽しみ事が継続して出来るようスタッフ間で話し合いをしている。ご家族へも説明し協力して頂くこともある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はレクリエーションとして年2回ご本人の行きたい場所へ出かけている。日常的な外出が少なくご家族の協力も含め考えていきたい	休浴日に散歩をおこない、時間に余裕のある日曜には20分余かけることもあります。ベランダに出て育てた花や野菜を眺めての日向ぼっこが楽しみな人もいます。年2回外出レクとして利用者が行きたい場所へ出かけ、花の舞の酒蔵や寺院を訪れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には所持して頂いている。少し不安のある方はお預かりし必要時使用して頂くようにしている。混乱をまねきやすい方には、状況に合わせた対応をし買い物を楽しんで頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されている方や、知人との手紙のやりとりを行っている方もあり、ご家族や知人からの電話は取りつき協力をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保つよう努めている。 2階は高天井があり暖かい日差しが心地よく 1階は広いテラスがあり、少しの菜園や花が季節を感じさせてくれ、また、木々の緑が気持ち良い場所となっている	テラスにはプランターでの家庭菜園が玉葱、水菜、ブロッコリー、カリフラワー、えん豆を突らせ、パンジーもたくさん咲いていて心が和みます。掘りごたつのある畳スペースでは洗濯物を畳み、ソファーではテレビを観たり、気の合う仲間で談笑していました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんで集まれる居間や一人、または数人で作業できるテーブルがある。所々に置いた観葉植物がさりげない目隠しとなっており、一人でくつろげる場所となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱が起きない程度に使い慣れた家具を置いて頂いている。精神状態や身体機能に合せタンスの配置をしたりとご本人にとって居心地の良い場所となるよう工夫している	ベッド、エアコン、タンス、布団一式が用意されていますが、机や椅子とともに馴染んだ布団が持ち込まれています。リビングから視界に入る居室には簡易カーテンが、またベットからの降り位置に迷わない工夫もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンス、ドアは軽く作られており、トイレが解るよう表示してある。シンクの高さは使いやすい高さとなっている。 2階は車椅子の生活がしやすいよう、広くつくられている		